



デ・プッター監督は、本作で、第一回シカゴ国際ドキュメンタリー映画祭グランプリを獲得した。

## オランダ・ドキュメンタリーの第一人者、ヨス・デ・プッター監督の傑作「踊れ、グローズヌイ！」がDVDで発売されます。

2007年2月、日本で初めて行われた国際人権映画祭、アムネスティ・シネマ・フェスティバルのために東京シネマ新社は、アムネスティ・インタナショナル日本と共同して、この作品の日本語版字幕を作成しました。この作品のDVDは、およそ1年間、日本各地で上映会の形で公開されました。今回は、字幕にチェチェン語で唄われている歌詞に日本語訳をつけました。一つは、若者が愛を告白する歌 もう一つは、はるか故郷を離れた若者の祖国を偲ぶ歌です。加えて、カザフスタンを旅行した、チェチェン人女性映像作家ザラ・イマーエワと、在日韓国女性作家姜信子の二人が語る、歌や踊りについてのトーク、そして、故郷を遠く離れざるを得なかったチェチェン人たちが、故郷や祖国に寄せる、熱い想いを唄った、いくつかの歌の歌詞の日本語訳が、約20分の資料映像として加えられて充実した構成になっています。

### 作品の内容

コーカサスの山国にあって、戦乱にも屈することのない、強い子どもたちを育てたいと、一時は引退した舞踊家、ラムザン・アフマードフは、廃墟となったチェチェンの首都、グローズヌイで、児童歌舞団「ダイモーク」再建にとりかかります。稽古場にもことかく中、舞踊団は維持費捻出のため、夏休みには、一両の貸切バスを仕立て、欧州諸国に巡演旅行に出ます。オランダのドキュメンタリー作家、ヨス・デ・プッターは、その道中を記録に収め、それにアフマードフと子どもたちの、グローズヌイでの暮らしを交錯させます。この映画が製作された2002年当時、まだチェチェン全域が、ロシア軍占領下において、西側撮影チームの取材は、不可能でした。それを可能にしたのは、ロシア出身の女性映像作家、マーシャ・ノヴィコワの協力でした。オランダに移住しドキュメンタリー作家を目指していた彼女が、小型ビデオカメラを持ち込んで、現地の女性達の協力の下、グローズヌイ取材を実現したのです。この作品では、チェチェンの人々の暮らしと歌や踊りを通じて、民衆の平和への強い願いが、私たちの心に響いてきます。

「踊れ、グローズヌイ!」は、2002年暮れに完成、翌2003年の世界各地の国際映画祭でグランプリを含む、数々の受賞に輝き、ヨス・デ・プッター監督の代表作と見なされるようになりました。東京シネマ新社の作品紹介ウェブサイトでは、作品情報のみならず、「ダイモーク」舞踊団や、チェチェンの歌や踊りに関する最新情報を掲載しております。併せて、是非ご利用下さい。 [http://tokyocinema.net/grozny\\_dvd.htm](http://tokyocinema.net/grozny_dvd.htm)

DVD-Rの価格 ¥6,000 (税込)

発注先: 東京シネマ新社

〒112-0001 東京都文京区白山2-31-2-101

電話: 03-3811-4577 ファックス: 03-3811-4576

k-okada@tokyocinema.net をアカウントにPayPaLで購入できます。

舞踊団は、今ではチェチェン共和国立児童歌舞団というステータスを獲得しているが、未だ自前の稽古場が無く、子どもたちが通う、市立第14中学校の体育館で稽古を続けている。

